

平成 26 年度 国立中央青少年交流の家

若者たちが企画する

富士のさと わくわくキャンプ ①家族編

平成 26 年 9 月 13 日 (土) ~ 9 月 15 日 (月) 2泊3日

○目的

ボランティア養成研修の参加者等が身につけた内容を、家族対象キャンプで実践しスキルの向上を図る。

○本事業の仕組み

当所のボランティアが家族対象のプログラムを企画立案し、当日の運営をする。



【運営に関わった全スタッフ】

○キャンプの企画立案

立候補のあった 22 名の企画メンバーを中心に企画立案を進めた。

各自に担当を割り振り、お互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・チラシの作成
- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※手順や安全管理について記載されたもの
- ・実地踏査の実施 等



【企画メンバーが作成したチラシと企画書】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、企画メンバーをコアスタッフに総勢 34 名（ボランティア 13 名、社会教育実習生等 21 名）が担った。 スタッフは前日から宿泊し準備や試作、最終的な打ち合わせをして参加者を出迎えた。今回の参加者は 20 家族 74 名であった。

初日【9月14日(日)】



《はじめの会》



《交流ゲーム》



《探検ウォークラリー》

スタッフもちょっと緊張気味!? じゃんけんチャンピオンは誰? やまぼうしの実を発見



《竹ごはんづくり》
上手に炊けたかな？



《テザートにスモア》
マシュマロが溶けて格別



《読み聞かせタイム》
大型絵本にくぎ付け！

2日目 [9月15日(月)]



《牛乳パックでホットドッグ》
こんなに簡単にできちゃうの!?



《森のクラフト》
自宅へのお土産をつくろう



《おわりの会》
嬉しい感想がたくさん！

《参加した家族の声》

- ・ お兄さんお姉さんが親切で、至れり尽くせりでした。ありがとうございました。空き時間に遊んでいただいたのも子どもたちにはとても楽しかったようです。また参加したいです。
- ・ 日頃、火を使うことやバーナーを扱う機会はありません。今回は、子どもたちに心行くまでやらせてあげられて嬉しかったです。
- ・ 説明をする時に、イラストなど表示を見せてくれたので子どもたちにとってわかりやすかったです。



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》

- ・ プログラムを楽しみに参加してくれた家族が多く、準備した甲斐がありとても充実感があつた。また、家族が協力する姿を随所で見ることで嬉しかった。
- ・ 企画の出発時点で遅れをとってしまい、細かい予測ができず、計画に大幅なズレが生じてしまった。他のスタッフのアドバイスがなければ運営ができなかったと思う。



《成果と課題》

企画や運営に携わる人数が多く、メール等のやりとりで思いを共有することに苦労した。その結果、個々で関わりに濃淡が生じてしまい戸惑う場面が多々あったようである。その方法については、今後改善の余地がある。しかしながら、紆余曲折をしながらも参加者に対して満足度の高いプログラムを安全に運営できたことは大きな成果であった。